

《キーワード》 Minimal Intervention (MI)、う蝕、硬組織疾患、う蝕の予防・処置、切削器具、修復処置、修復材料

《担当者名》 斎藤 隆史 伊藤 修一 川上 智史 松田 康裕

【概要】

20世紀初頭にG.V.Blackが体系化した保存修復学は、それ以降のう蝕治療の規範であった。その後、う蝕学の進歩と歯質接着性修復材料の開発及び接着技術の目覚ましい発展により、国際歯科連盟(FDI)は新しいう蝕治療のガイドラインであるMinimal Intervention (MI：最小限の侵襲によるう蝕治療)を提唱した(2000年)。

本科目の目標は、講義・実習によって、MIの概念に立脚した新しいう蝕の検査・診断法、予防法、う蝕除去法、修復法及び術後管理についての理解を深め、基本的技術を習得するとともに、現在、普及している接着性修復材料の生体材料学的特性及び耐久性などについて理解することである。

【学修目標】

1. う蝕及びその他の硬組織疾患の成因を説明できる。
2. う蝕及びその他の硬組織疾患の検査法・診断法を理解し、実践できる。
3. Minimal intervention (MI) の概念を説明できる。
4. う蝕及びその他の硬組織疾患の予防法を理解し、実践できる。
5. う蝕の除去法を理解し、実践できる。
6. う蝕及びその他の硬組織疾患に対する修復法を理解し、実践できる。
7. 接着性修復材料の生体材料学的特性及び耐久性を理解する。
8. 修復後の管理を理解し、実践できる。
9. う蝕治療学関連の基礎研究に用いられる手技を理解し、実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	う蝕及びその他の硬組織疾患の成因、検査法・診断法		斎藤 隆史 伊藤 修一 川上 智史 松田 康裕
2	Minimal intervention (MI) の概念		斎藤 隆史 伊藤 修一 川上 智史 松田 康裕
3	In vitro 研究の実際と用いられる分析方法		斎藤 隆史 伊藤 修一 川上 智史 松田 康裕
4	In vivo 研究の実際と用いられる分析方法		斎藤 隆史 伊藤 修一 川上 智史 松田 康裕
5	学会発表・論文作成		斎藤 隆史 伊藤 修一 川上 智史 松田 康裕
6	抄読会の開催		斎藤 隆史 伊藤 修一 川上 智史 松田 康裕
7	臨床検討会の開催		斎藤 隆史 伊藤 修一 川上 智史 松田 康裕

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
8	学外講師によるセミナーの開催		齋藤 隆史 伊藤 修一 川上 智史 松田 康裕
9	学会参加		齋藤 隆史 伊藤 修一 川上 智史 松田 康裕
10	う蝕除去法及び修復法実習		齋藤 隆史 伊藤 修一 川上 智史 松田 康裕
11	担当患者へのう蝕治療の実践		齋藤 隆史 伊藤 修一 川上 智史 松田 康裕

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況、提出物

【教科書】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【学修の準備】

提示した到達目標に合わせて、関連資料の収集・文献講読をしておくこと。